

おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー一部報第 3 号 (4 月 24 日)

サッカー一部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Mリーグ初戦 後半に爆発

4 月 20 日 (日) 村山地区リーグ (以降Mリーグと略記) の初戦が行われました。Mリーグは地区総体に接続する大会で、3 ブロックあるリーグの 1 位は県総体の切符が与えられる。山形県リーグ 1 部 (Y 1) 以上に在籍している上位 8 つのチームには自動的に県総体の切符が与えられる規定となっており、村山地区では山形中央、東海大山形、日大山形、山形城北の 4 チームがすでに県総体の出場権を得ている¹。Mリーグ 3 ブロックの各 1 位は、地区総体にてそれら 4 チームと順位決定トーナメントを戦うことになる。また、3 ブロックの 2 位・3 位も、地区総体にて代表決定トーナメントを戦い、3 位までが県総体の切符を得る。すなわち、**Mリーグ参加チームからは 6 チームが県総体に行く**ことになる。山東はもちろんMリーグのブロック 1 位を目指し、初戦の山形工業戦を迎える。

山工は昨年、地区新人で強豪日大山形相手にあわやPK合戦かという粘りのある戦いを演じた印象が深い。練習試合でもスキルのある選手がそろっているとの印象を受けている。すなわち、例年以上に山工の仕上がりは良いとみて間違いないだろう。そんな覚悟を持ち、春休みから「この状態で山工に勝てるのか」との言葉で選手に危機感を訴え、意識付けしてきました。さて、先週Yリーグ初戦で勝利した山東、Mリーグでの戦いはどうか。

会場は前週に引き続き山形商業。**今週はベンチ後ろの桜が満開**。規定がないので早い者勝ちなのがベンチの位置。先週は南側 (校舎と反対側) のベンチに陣取り、勝利しているので、験を担ぎたい顧問は南側がいいな~と思っていたが、山東の選手が山工に先んじてアップを始めたのは、ピッチ北側 (校舎側)。ということは、北側ベンチが決定。何となく嫌な予感。試合前、選手には、①作り直す意図のないバックパスをするくらいなら (バックパスをもらった人が苦し紛れのロングボールを蹴らざるをえないのなら)、バックパスをせず、相手ディフェンスライン裏にダイレクトにボールを運ぶこと、②相手の攻撃陣にはスキルのある選手がいるので、基本通り、切り返しをさせない (相手の進行方向に回り込まず限定の方向を守る) ディフェンスの重要性を指示し、ピッチに送り込む。たくさんの保護者の方、清野OB会長、後藤報道局長、佐竹校長も会場にいらしており、あとは選手が頑張るだけ。

立ち上がり、山東が快調に攻め込み、チャンスを作る。右サイドからセンターリングをシュート、そして作り直し左サイド抜け出してシュートと、決定機を得るも、決めきれない。ベンチ隣の齋藤GKコーチ、「去年から出てたと思うけど、山工のGK、巧いと思うんだよね」とつ

¹ 今年、Y 1 (8 チーム) にモンテBが入っており、かつ、高体連所属チームでプリンスリーグ以上に参加しているチームがないため、Y 1 以上にいる高体連所属チームは 7 つ。よって、今年の県総体では 7 つのシード枠のみが確定していることとなります。

ぶやく。確かに、立ち上がりの山東の攻勢に対し山工GK、ファインセーブという形ではないがボールを体に当ててシュートストップに成功している。これは、適切なポジショニングと、シュートに対する落ち着いた対処の証拠。もともと山工のCDFの力を高く買っただけに、CDFとともにGKも手強かったら、正直苦しい。立ち上がりのチャンスを決めきれなかった代償の大きさにイライラ来つつも、「落ち着かなければ」と自分に言い聞かす。Mリーグの試合規定はYリーグの90分よりも短い70分。(Yリーグよりも) 急ぐ必要はあるだろうが、焦りはやはり禁物。山工の攻撃は華麗な連携で攻めるという訳ではないが、個々に力強さがあり、山東の選手が複数で対処してもゴール近くまで迫られるなど、嫌らしい。というか、**山東の選手、そもそも1対1の勝負への高い意識を持たねばならないし、2対1の勝負に持ち込んだら絶対に抑えなければならぬ**。緩慢な守備が目立つ。また、ディフェンダー陣に、目の前の相手にボールをプレゼントするなどの凡ミスが飛び出し、冷や冷やの前半。総じて山東押し気味なものの、相手のファインシュートが決まれば危なかった前半。スコアレスで折り返す。

守備陣(というかGK)は、先週に引き続き決定力を欠いた攻撃陣へのイライラを爆発させる。そんなこともあって、ハーフタイムでは「これはリーグ戦。そして、初めから厳しい試合になると予想していた山工戦。得点し勝つのが一番だが、最悪引き分けでもいいんだ。焦らず戦おう。」と声をかける。こういう場合、自分にかけたい声を、選手にかけていることが多い。

しかし、後半、そんな慎重な声と裏腹に、立ち上がりから山東の攻撃が炸裂。手厚く攻めたなかから、弓なりのボールが右サイドから上げられると、走り込んだムンタリがヘディングシュート。**我々がシュートを確認すると同時かそれよりもちょっと早くに、ムンタリの「よっしゃー」との声が響く**。山東待望の先制。そして、その直後、ムンタリ⇒コウタのポストプレー⇒ムンタリシュート⇒山工GKorDF防ぐ⇒こぼれ球をなぜかゴール前にいた山東CDFタツルが押し込む、で追加点。試合後のヨーティのまとめにあったが、**得点後のたたみかける得点がとても気持ちを軽くさせた**(相手からしたら、それをやらせてはいけなかった)。その後は、ゴール前の落ち着いた崩しから、待望の！クリロンの得点もあり、結局4対0で山東の勝利。後半だけ考えると山東の圧勝だったが、前半はやはり苦しかった。途中、一年サンペーがイニエスタばりのドリブルでPKを獲得(サンペーの当初のあだ名はミツニスタ・・・でも呼びにくい)。ベンチからは、得点が欲しいキャプテンコウタをキッカーに指示。しかし、それを外す、というオマケ付き。複数得点後のPKだったので、ベンチでは明るい感じで「何だよ(怒)」という受け止め方でしたが、あれは決めでほしい。試合後、喜ぶ山東選手の中で、コウタだけはずっと(約1.5h)落ち込んでました・・・。

ともかく、試合前にダイレクトな(ゴールに直線的に迫る)ボール運びをためらうな(①)、と指示していたが、**押し込んだ状況で丁寧にボールをつなぐという山東の攻撃であまり見ない攻め口も見ることができ、選手の適切な状況判断に頼もしさを覚えた一戦でした**。

熱い応援ありがとうございました。今週もMリーグ、そして同日夜、保護者激励会、宜しくお祈りします。

4月27日(日) Mリーグ第二戦 天童高校戦 11:05 キックオフ @山形明正G